

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念については勉強会を開催し話し合いの場を設けているが全ての職員が実践には繋がられていない。	理念について全ての職員が実践に繋がられるように、まずはフロアごとに具体的な目標を立てる。	毎月の勉強会で目標についての達成、未達成を評価し、達成できていた場合は、また新たな目標を立てる。目標は理念に沿った具体的なものとし、ひと月で評価できる内容にする。	6ヶ月
2	6	身体拘束については鈴の設置なども拘束として扱っていたが「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」としての線引きを行う必要がある。	身体拘束に関する判断記録などのシートを見直し、拘束か、そうではないかの基準を明確にする。	明確にした基準はマニュアルにも明記する。鈴の設置などの拘束として扱わなくなった要件も、自由、尊厳を奪う恐れのある行為として身体拘束についての勉強会では今後も扱っていく。	6ヶ月
3	26	介護計画書の作成時に具体策、サービス内容が施設職員のみとなっており、介護職員以外の関りが増えることが望ましい。	介護計画書を見直し、外部との関りを持つことができる具体策、サービス内容の立案に心掛ける。	介護計画書立案時にその都度行っていく。	6ヶ月
4	35	災害対策について、夜間想定避難訓練ができておらず、設備の改善もできていない(2階からの避難方法がスロープなしの階段のみ)	夜間想定避難訓練を行う。	来年度の避難訓練に夜間想定訓練を組み込む。設備の改善(スロープの設置)については今後も経営者に相談を続ける。	12ヶ月
5	40	食べられるものも限られている為、食事のメニューが似通ったものになってしまっている。	新しいメニューを取り入れる。	月に数回は新しいメニューを取り入れ、入居者の反応を見ながらメニューの種類を増やしていく。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。